



## 1 巡検のお知らせ

次のように巡検を行います。ふるってご参加ください。

【テーマ】双六谷と山之村の自然

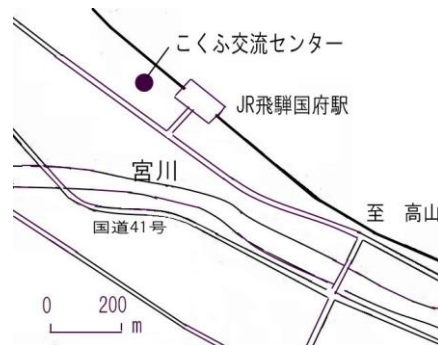
【日時】7月28日(土) 午前9時集合(小雨決行、中止の時はホームページに掲載します。問い合わせ 090-1563-5953 中田)

【集合場所】こくふ交流センター駐車場、JR飛騨国府駅の横

【行き先】双六谷(上室)、山の村(神岡)

こくふ交流センター → 十三墓峠 → 鼠石 → 盤の石 →  
材木岩 → 百間滝 → 山之村(手取化石) → こくふ交流センター

【持ち物】昼食、ハンマー、カメラ、野帳、帽子、日焼け止め、雨具、新聞、ビニール袋 など次の日時に、飛騨地学研究会談話会を行います。参加をお願いします。



## 2. 2018年度飛騨地学研究会総会、下畑先生祝賀会の報告

3月17日(土) 午後1時30分より高山市民文化会館で、飛騨地学研究会総会が開催されました。参加者は、下畑、岩田、石橋、直井、加藤、山下、鷺見、田中、中田の各会員でした。飛騨地学研究会の新役員は昨年3月に決まっていますが、2017年度までは前の事務局の体制で活動を行いました。2018年度からは新体制となります。

中田前事務局長(現会長)より次の議題が提案されました。まず2017年度の会計報告です。昨年は、久しぶりに会費を集めることになり1人1,000円集めました。会の活動が活発になり、ジオパークに関係させて巡検を3回行い会誌も6回発行したことから、送料(切手代)などの費用が増えて9,747円の赤字になりました。そこで、今年度は1人2,000円集めることが提案され了承されました。

次に昨年の会費の納入状況の説明がありました。会員は41名登録されています。その中で顧問3名、高山市のジオパーク担当者1名は、会費は不要としてきました。会費が必要な37名中14名の会費納入はありません。そこで、これまで一度も活動に参加してなく今後も会費の徴収が難しいと思える方は自然退会にしたいという提案がありました。この件に関しては、もう1度だけ会費の納入をお願いしたらどうかとなりました。

最後に、次のように 2018 年度の役割分担と活動計画が提案され了承されました。

- ・ 飛騨山脈ジオパーク協議会（下畑、直井）
- ・ 高山市広報ジオパーク連載（中田、下畑、岩田）
- ・ 巡検、見学会（中田、寺門、中口、鷺見）年 3 回以上を目標。
- ・ 会誌発行（寺門）
- ・ 会計（寺門）
- ・ ホームページ（中田）

総会后、談話会がありました。まず、田中会員から、「定年後の理科教育活動」の発表がありました。定年後、小学生向けの理科の体験学習、親子理科教室を担当された話です。中でも、夏休みの体験学習では、古川盆地の成り立ちを現地で体験し、子ども達の興味が深まった様子が伝わってきました。次に下畑会員から、「飛騨山脈ジオパーク研修会参加報告」がありました。ジオパークの理念は、持続可能な地域のジオに基づく持続可能な社会づくりということでした。すでにジオパークになっている伊豆や箱根では、詳細なパンフレットが出来上がっているとのことでした。次に岩田会員から、「『斐太紀』誌上における松倉城石垣論争について～なにが問題か～」というテーマで発表がありました。高山市の松倉城の石垣を作ったのは、三木（みつき）氏か金森氏かという問題で、三木派の岩田会員と金森派の佐伯氏との論争の記録です。岩田会員は、地質の観点から、石垣の岩石の種類、大きさ、採集地が、歴史資料と整合しているか追求しているのに対し、佐伯氏は、歴史家として、歴史資料と城跡遺構から主張を展開しています。

以上、談話会はいへん充実した会になりました。この後、場所を変え、午後 6 時より近くの桃園で中華料理を食べながら、「下畑先生の叙勲を祝う会」が行われました。参加者は、下畑、岩田、田中、直井、岩塚、中口、山下、坂本、鷺見、加藤、寺門、足立、中田の各会員 13 名でした。下畑先生より、叙勲の時の表彰式の様子などをお聞きし、中田会長より記念品（図書カード）が渡されました。その後、中口副会長の乾杯の音頭で会が始まりました。坂本会員にワインもいただき、寺門事務局長にお言葉をいただき和やかな雰囲気のお祝いとなりました。

（中田記）

